

FPソフト「ポートフォリオ理論によるアセット・アロケーション」商品番号:A007000

エクセル設定 Excel2013

Excel 2013 で、本ソフトウェアをご使用いただく際の設定等について記載します。

= 目次 =

(1) 保護ビュー

(2) マクロ

(3) 「画面」ツールバー

(4) ソルバー・ライブラリの参照

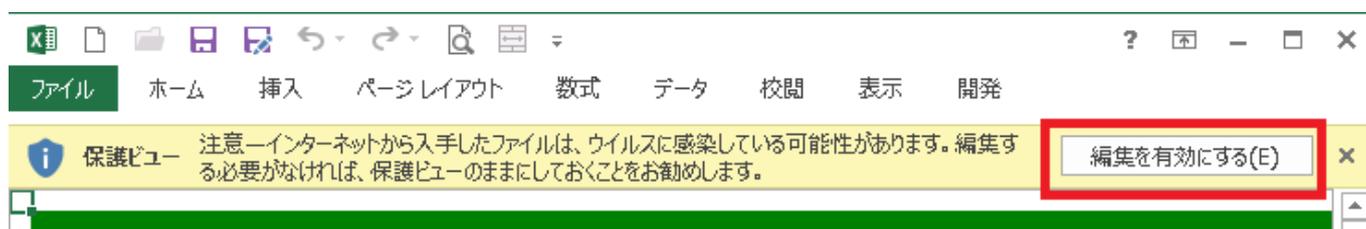
4-1 確認方法

4-2 参照に失敗している場合の処置

※「開発」タブがない場合

(1) 保護ビュー

エクセルバージョンが Excel2010 以降(Excel2010, Excel2013) の場合、インターネットから入手したソフトを動作させるときに、 ウィルス感染を防ぐ目的で「保護ビュー」という エクセルの動作を制限する機能が働きます。FP ソフトウェア研究所のソフトは、事前にウィルスチェックを行い問題のないことを確認しておりますので、この表示が表れた場合には、“ 編集を有効にする(E) ” の箇所を押下して、この動作制限を解除してください。

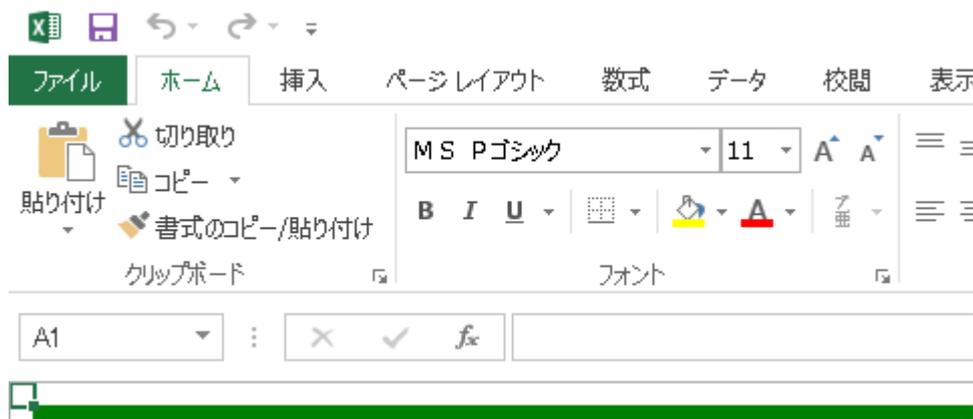
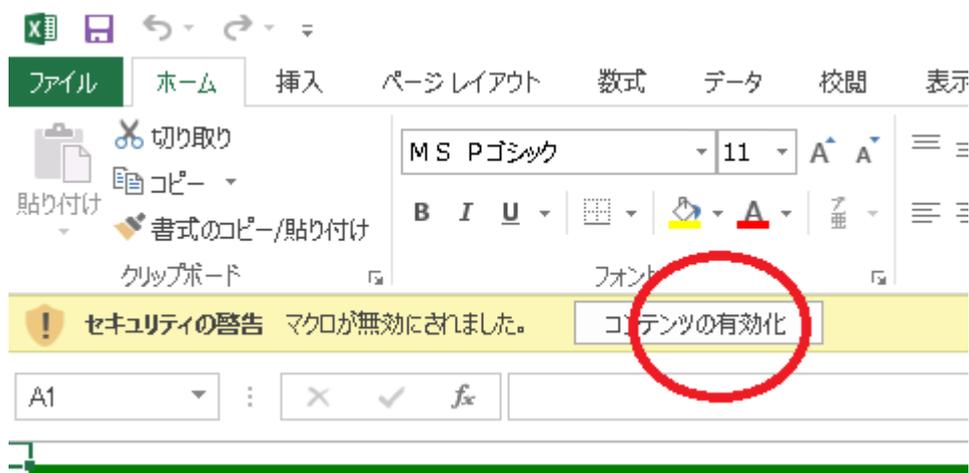


※ 「保護ビュー」について、マイクロソフト社からの情報は次のリンク先をご参照ください。

<http://office.microsoft.com/ja-jp/word-help/HA010355931.aspx>

(2) マクロ

エクセルのマクロを使用しています。ソフトの起動時に「セキュリティの警告」が画面の上部に表示され場合には、「セキュリティの警告」行の右側にある「コンテンツの有効化」ボタンをクリックします。

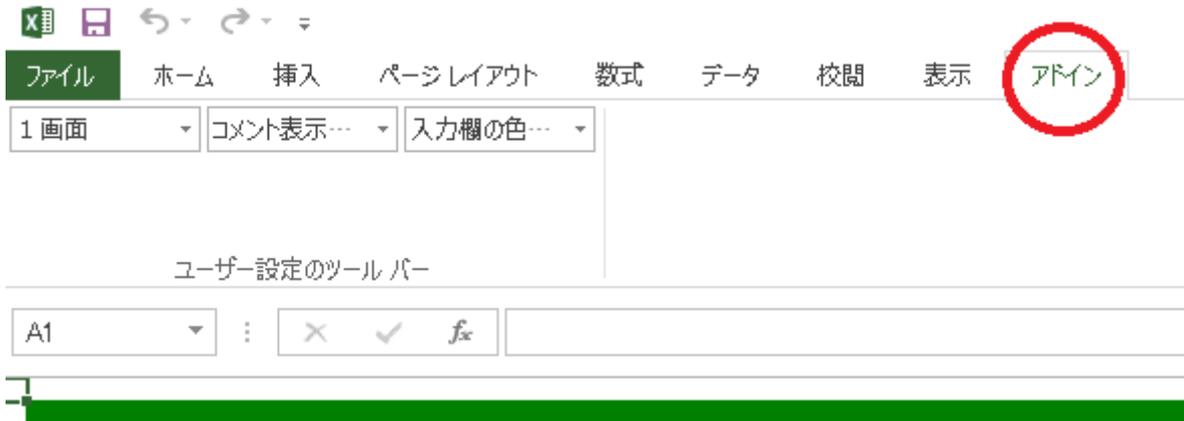


「セキュリティの警告」の表示が画面から消え、マクロの動作が有効になります。

※ なお、2回目以降にソフトを起動する場合には、上記の設定は不要です。

Excel2013 の標準の設定では、同じソフトを2回目以降に起動する場合、「セキュリティの警告」画面は表示されません。

(3) 「画面」ツールバー



エクセル画面の右上の「アドイン」タブを押すと、「画面」ツールバーが現れます。

(4) ソルバー・ライブラリの参照

本ソフトウェアは、エクセル付属のソルバー・ライブラリの参照を行っていますが、お客様の PC 上にエクセルをインストールしたフォルダ位置が異なる場所にある場合には、参照の失敗が起こります。以下の手順で確認を行い、ソルバー・ライブラリの位置をお客様の環境に合わせて再設定してください。

4-1 確認方法

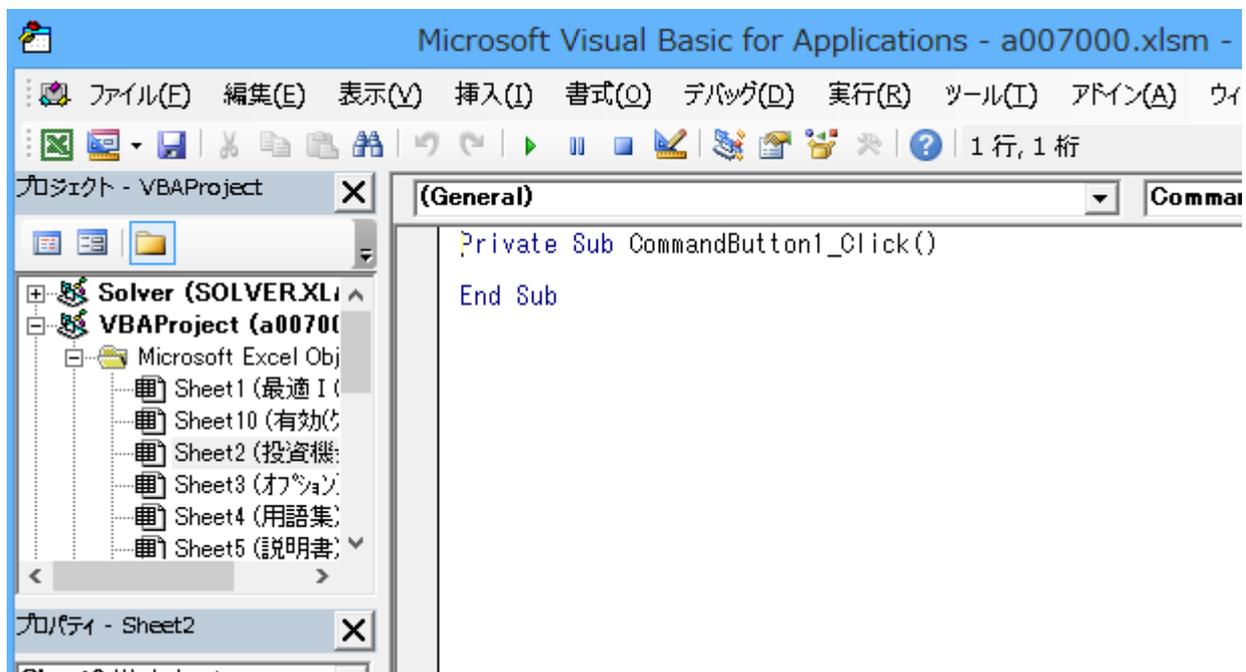
「(1)マクロの設定」を行った後、“a007000.xlsm”のソフトを起動し、画面上部のリボンの「開発」タブで、次のメニューを選択します。 「開発」タブ → 「コードの表示」



「開発」タブ

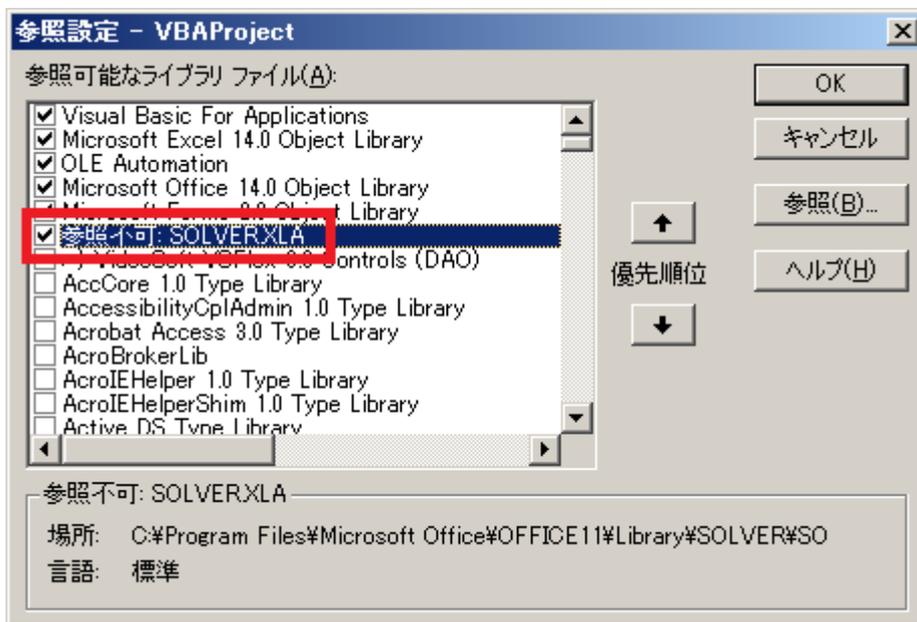
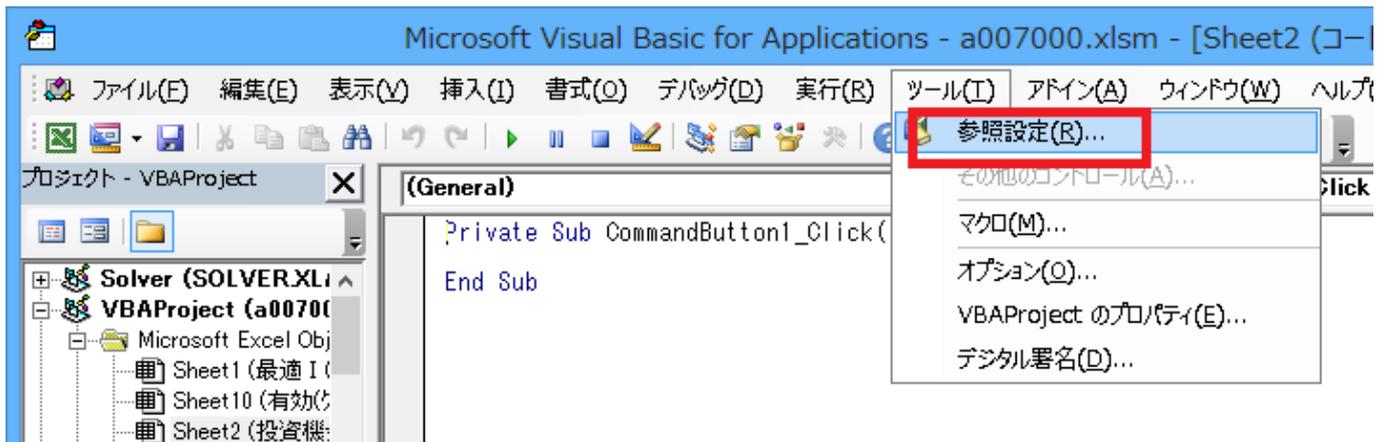
★ リボンに「開発」タブがない場合には、※「開発」タブがない場合 を参照

次のような「Microsoft Visual Basic for Applications - a007000.xlsm」の画面が開きます。



「Microsoft Visual Basic for Applications - a007000.xlsm」のメニューバーで次のようにすすみます。

「ツール(T)」→「参照設定(R)」 「参照設定-VBAProject」の画面が現れます。



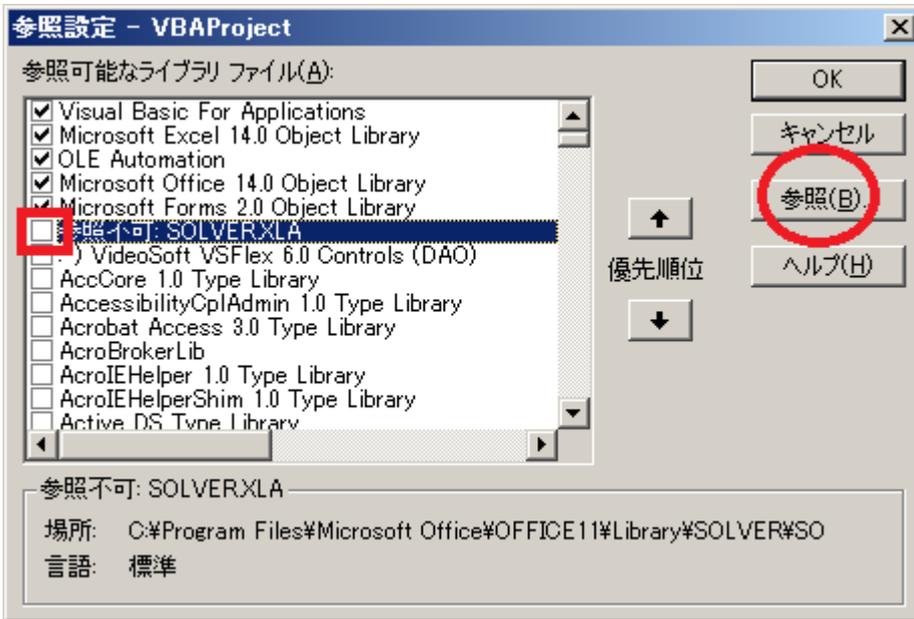
参照設定-VBAProject

参照に失敗している場合。
(不可参照: SOLVER.XLA)

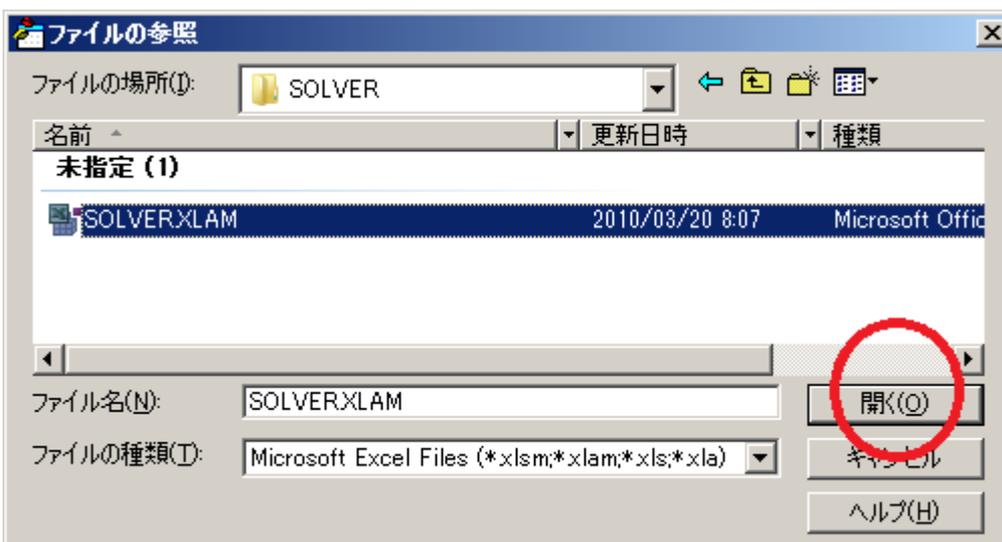
3-2 参照に失敗している場合の処置

前の画面のように、(参照不可: SOLVER.XLA)となっていると、参照に失敗していますので、正しい位置にライブラリを再設定する必要があります。

- ① 「参照不可: SOLVER.XLA」の左側チェックをいったんはずし、「参照(B)」ボタンを押します



- ② 「ファイルの参照」画面が現れますので、ライブラリ(SOLVER)の参照の再設定を行います。



ファイルの参照

ファイルの種類(T):で
Micro Office Excel
Files((*xlsm;*.xlam;
.xls;.xla)を選択したあと、

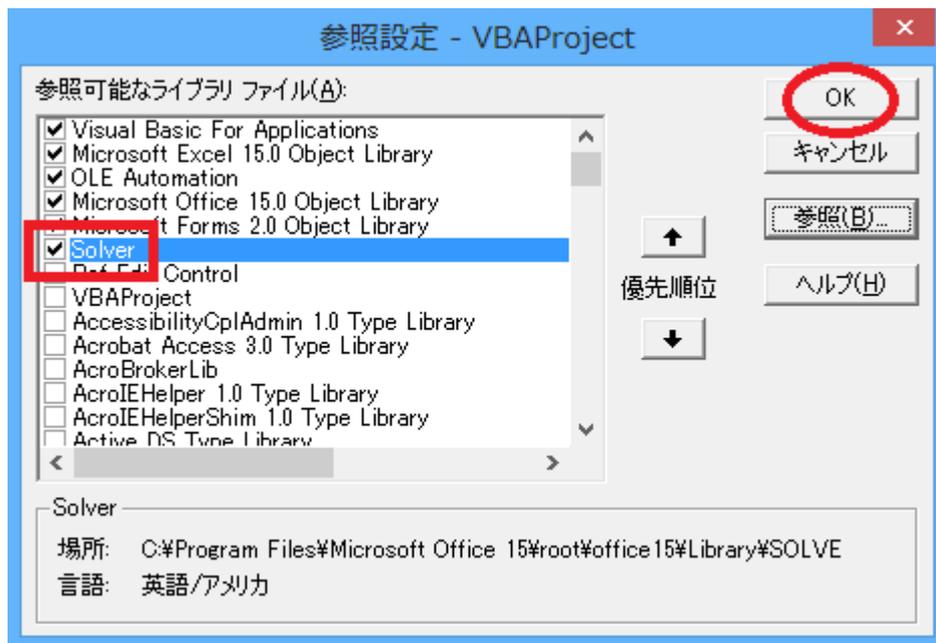
適切なフォルダをたどって
(注) “SOLVER.XLAM”を
指定し、「開く(O)」ボタン
を押します。

(注1) “SOLVER.XLAM”は、EXCEL.EXE が存在しているフォルダ下の “ Library\SOLVER ” フォルダの下に配置されています。

オフィスソフトのインストール時にフォルダを指定していない場合は、次の場所になるようです。

” C:\Program Files\Microsoft Office 15\root\office15\Library\SOLVER\SOLVER.XLAM ”

ライブラリ(SOLVER)の参照の再設定が終了しますと、再度、「参照設定-VBAProject」の画面が現れます。

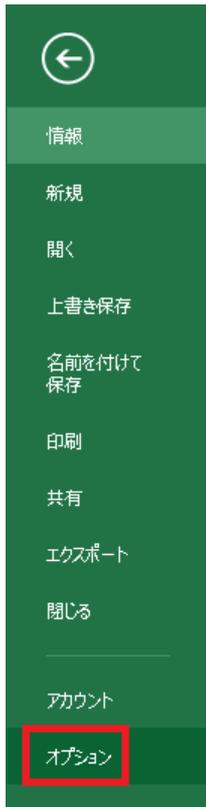


参照に成功 (SOLVER)

上のように表示されていれば参照の成功です。

画面の「OK」ボタンを押して設定を終了します。最後に、ファイルを上書き保存して、プログラムを終了します。次回のソフト起動から正しく動作します。

※「開発」タブがない場合



リボンの「開発」タブが表示されていない場合は、次の手順で表示させることができます。

ファイル → オプション を押下すると、「Excel のオプション」画面が表示されます。
(図10)

「Excel のオプション」画面で、「リボンのユーザー設定」→右側の **メインタブ**の「開発」の箇所にチェックを入れます。

最後に、「OK」ボタンを押すと、「開発」タブが表示されます。

「Excel のオプション」画面

